

## PRODUCER'S REPORT

こだわりの産地をご紹介します



人々の心に寄り添う、オトメユリ。南会津の大自然から、あなたへ。

4月下旬に雪解けを迎え、遅い春が訪れる6月の南会津には、大自然に囲まれた山あいのほ場に、ピンクの花色の可憐なユリがひっそりと咲き誇ります。

花言葉は、「飾らぬ美」、「純潔」、「私の心の姿」。

いつもまっすぐに、人と自然とのつながりを大切にしてきた、私たち日本人の心を写す、そんなユリです。



### ここにしかない、可憐なオトメユリ

日本独自の品種であるオトメユリ。南会津の産地に根付き、これまで50年前から栽培が続けられてきました。

全国どこを探しても、栽培のむずかしいオトメユリを、これだけの規模で見られるのは、ここ南会津の月田農園しかありません。

梅雨の半ば、6月中旬～下旬の限られた季節に、4～5年の球根育成期間を経て、やっと可憐な花を咲かせるのです。

ひかえめに、うつむいて咲くその姿は、清楚な乙女を連想させ、またその姿は、日本人の心に素直に入り込んでくるような気がします。

いつまでも、ずっとそばに寄り添っていたい。そんなオトメユリです。



### 森との共生のなかで、ここにしかない花が生まれていきます

生産者の月田禮次郎さんは、森の姿、自然の姿を日々体で感じながら、オトメユリの栽培に適したほ場を作るよう林地を開墾し、自然いっぱいの森の中で、栽培を続けてこられました。

森の落ち葉や、ドングリがこぼれたふかふかの畑の土に抱かれて、オトメユリの小さな芽が育っていきます。

小さいけれども、前に向かって生きていく植物の姿と、大きな自然の姿が、ここにはあります。

禮次郎さんは、こう言います。

「こんな状況だからこそ、「人の命」、「家族」、「自然環境」を大切にしていかなきゃならない。」そして、「ここだからできること。ここでしかできないことを続けていきたい」と。



真っ白な雪。そして緑から、ピンクの絨毯へ。季節は巡っていきます。4月上旬。まだまだ、雪に覆われた南会津ですが、緑の芽吹きに向かって、一步一步季節が巡っていきます。大自然から生まれた可憐な花々を皆さまにお届けできるのを楽しみにしております。

